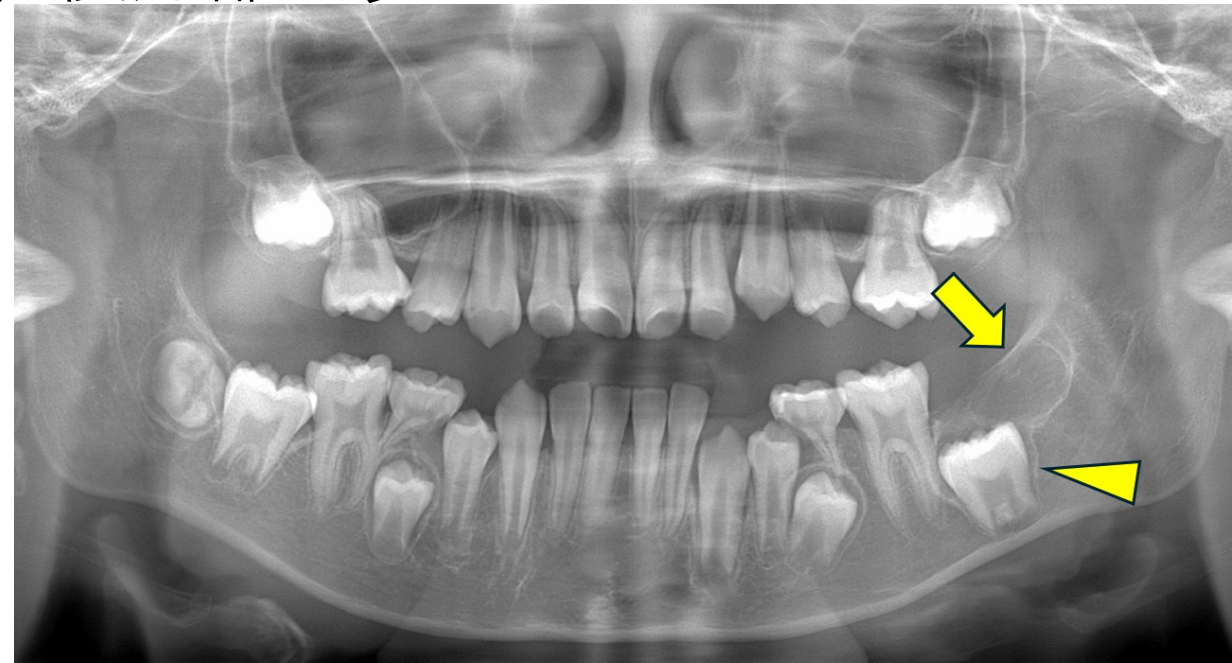
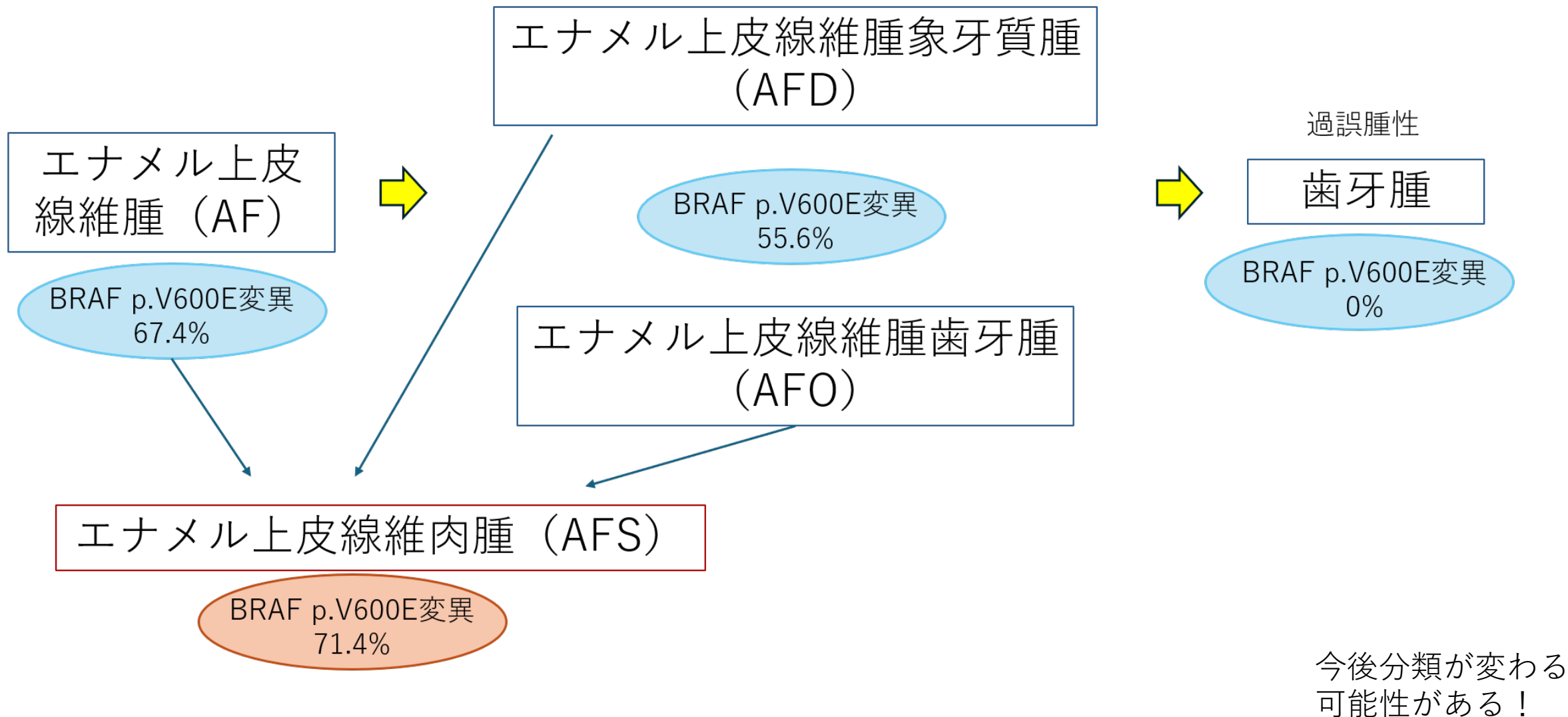


Ameloblastic-fibrodentinitoma (AFD)

- 全歯原性腫瘍の2%を占める稀な良性上皮間葉混合性歯原性腫瘍
- 歯原性上皮と未熟な結合組織で構成され、異形成象牙質の形成を特徴とする
- 平均年齢は15歳 男児に多い（男：女＝2.4～3：1）
- 下顎に多く（上顎：下顎＝1：3）、後方部に多い
- 未萌出歯（▶）に関連
- 画像所見；境界明瞭な混合性病変

Darwish NMA, et al. J Egypt Natl Canc Inst. 2023 Oct 30;35(1):34.
Sabu AM, et al. J Maxillofac Oral Surg. 2018 Dec;17(4):444–8.





AFから歯牙腫へ成熟する発育過程
であるとして、AFD/AFOは
WHO4,5版で歯牙腫に分類



近年、BRAF変異の頻度から、
過誤腫性ではなく真の腫瘍性病
変もあるのではとされている

鑑別診断

	エナメル上皮 線維腫（AF）	歯牙腫	腺腫様歯原性 腫瘍（AOT）	石灰化上皮性歯原 性腫瘍(CEOT)	象牙質性ゴースト 細胞腫（DGCT）
画像所見	骨透亮像 単房性が多い	混合性～硬化性 歯のような腫瘍が 多数	未萌出歯に関 連する混合性 病変	未萌出歯に関連す る混合性病変 「吹雪状外観」	混合性病変
好発年齢	平均15歳	10－20代	10代	30－40代	40－50代
好発部位	下顎後方	複雑歯牙腫は下顎 後方 複合歯牙腫は上顎 前方	上下顎前方	下顎後方	上下顎前方

Kurimoto T, et al. J Oral Maxillofac Surgery, Med Pathol. 2019;31(1):38–42.
Wright JM, et al. J Istanbul Univ Fac Dent. 2017 Dec 2;51(3 Suppl 1):S10-S30.
Head and Neck Tumours (WHO Classification of Tumours, 5th Edition, Volume 9)

まとめ

- 若年者に発症する稀な歯原性腫瘍である Ameloblastic-fibroblastoma (AFB) を提示した
- 若年者の臼歯部の、未萌出歯を伴った骨透過性病変（混合性病変）では AFB と共に鑑別に挙げるべき
- WHO4版、5版では個別の腫瘍としての記載は無いが、今後変わるかもしれない